

瀬田川のシジミ漁場の環境モニタリング (2018 年)

酒井明久・森田 尚

1. 目 的

シジミの漁獲量が低迷している瀬田川では、漁協を中心とする活動組織「瀬田川流域クリーン作戦」が、近江大橋以南の南湖および瀬田川で湖底耕耘やシジミ生息密度調査を実施している。本調査は、活動組織と連携して漁場環境を評価するために実施した。

2. 方 法

調査は2018年4月～12月に9回実施した。活動組織が調査定点とする20地点から4定点（B2、B4、C2、C3）を選び、表1に示す項目を調査した。さらに、8月には全20地点を対象に粒度組成を調べた。

3. 結 果

底質：4 定点の底質は類似しており、粒度組成は砂～礫を中心として泥の割合は概ね10%以下、灼熱減量は4%以下であった。

酸揮発性硫化物量は期間中に 0.001～0.059 mg/乾泥 g の範囲で変動したが、その傾向に場所や季節による明瞭な特徴はみられなかった。また、8 月に実施した全地点の粒度組成調査では、泥が 20%を上回る地点（A4, C1）や礫が大部分を占める地点（C4, D3, D4, E3, E4）がみられた（図1）。

水質：4 定点の底層水温と溶存酸素濃度は類似しており、底層水温の期間中の最高値は7月25日の30.7℃、最低値は12月7日の13.3℃であった。溶存酸素濃度の期間中の最低値は8月30日にC2で観測された6.8 mg/Lであった。

表1 漁場環境の調査項目

項目	調査内容
底質	粒度組成、灼熱減量、酸揮発性硫化物
水質	湖底直上の水温、溶存酸素濃度

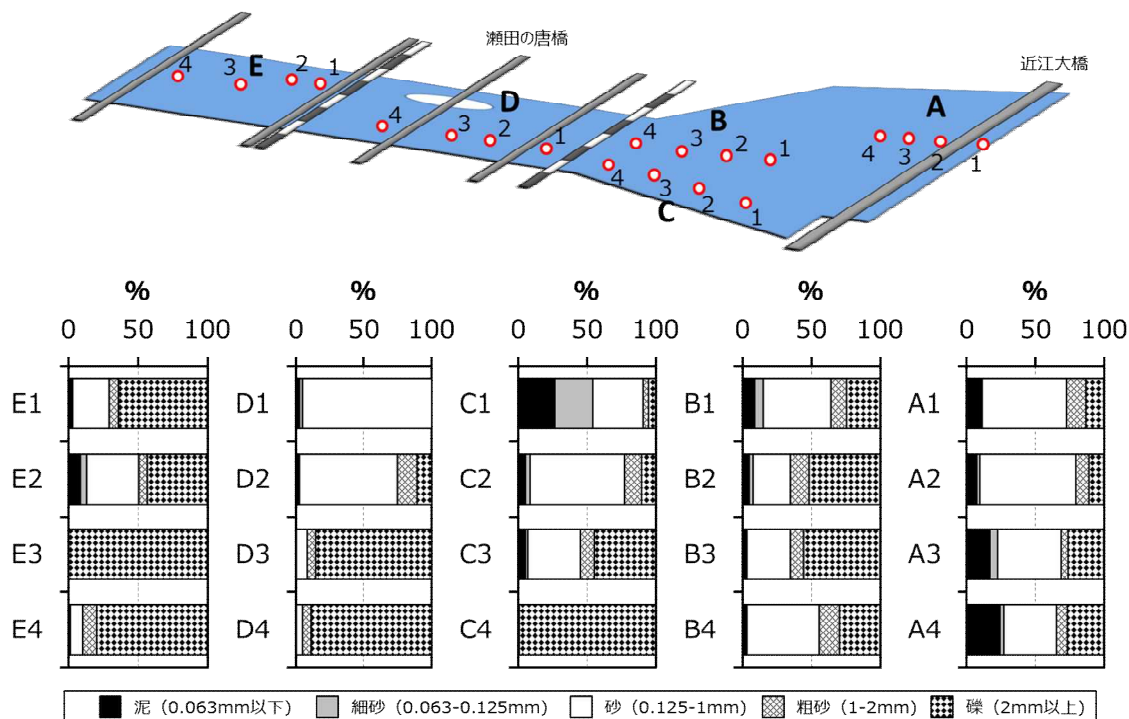


図1 瀬田川のシジミ漁場の粒度組成 (2018年8月30日調査)